(様式1)

自己評価票

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔のある生活」「安らぎのある生活」「思いやりのある生活」「地域の一員としての生活」という4点を基本にケアに当たっている。利用者・家族に分かりやすい表現であるも、具体的な文章表現がない。	○	4つの運営理念に補足できる、具体的な文章表現での行動指針のようなものをスタッフと話し合い作って行きたい。例えば、“私たちは利用者にいつでも笑顔で接します”等
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の生活ペースに合わせ、無理強いすることなく見守りを重要としている。 職員が自分の立場に置き換え、されたら嫌だなと思う行為はしないよう取り組んでいる。 日々の取り組みが不足している。	○	勉強会やミーティングの際、職員間で確認しあう。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	グループホーム内に掲示し、家族や外部の方にも理解していただくようにしている。又、ケアプラン立案は理念が基になっていることを家族にも説明している。 地域の方への働きかけが不足している。	○	運営推進会議での周知から取り組んでいる。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	秋祭りやさくらんぼ狩り等の地域行事への参加や利用者に馴染み深い郷土芸能の訪問依頼、地元商店街への買い物外出を行っている。今年度は地域のボランティア活動（馬渕川清掃）に職員を派遣し交流のきっかけ作りとした。　徘徊者の対応では隣の施設職員の協力を得ている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年度の自己評価項目について職員全員で「できている」「できていない」「わからない」でチェックしてみることから始めた。職員への意識付けから取り組んでいる。	○	意識付けで留まらず、改善点についての再評価を継続して行う。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の地域密着型施設と合同で2ヶ月に1回定期的に開催し、利用者の状況報告や行事の協力依頼や事故、苦情に対する意見をいただいている。	○	どちらかというと施設側からの報告内容が多いため、事前に資料を配布し、次回に検討しあえる会議として行きたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村主催の研修の参加時での情報交換を行っているが、頻度や施設側からの積極性については今後の課題であると思われる。	○	施設行事の案内送付からきっかけを作って行きたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	併設施設正面玄関ロビーにパンフレット・冊子を置き、閲覧できるようにしている。	○	職員への研修の機会を作り、理解を深め、相談があったときには対応できるようにしたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	併設施設との共同で身体拘束、虐待防止委員会を設置、毎月の会議にて検討確認を行っている。又、メディアからの情報を申し送りなどで伝達、回覧、押印する体制を作っている。	○	法律については熟知していない点が多いため、福祉・介護専門誌の購入をし、職員の目に触れる機会を作っていく。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院などでの退所についての不安が多く聞かれるため重要事項説明書の記載に準じ、分かりやすく説明を行っている。今年度、入・退所の事例はない。　利用者の重度化に伴い、ターミナルについての説明を行っている。	○	年々、利用者が重度化してきており、介護度も4や5レベルの方が増えてくるため、ターミナルについて家族の意向を伺う機会を随時持って行きたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	併設施設職員や看護師の往来や、外部からの体操指導者の訪問の際、話を聞いてもらっている。又、利用者自治会があり、意見をいただいている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ながわめーるの発信や面会時の状況報告、体調不良時や行事参加時の随時報告を行っている。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書へ苦情申し立て機関を載せるとともに、面会時にも伺うようにしている。又、運営推進会議の会議録を御家族へも送付している。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの開催の他、朝、夕の申し送りの際などを利用し意見や要望を聞くと共に、毎回事前に議題をあげ、前もって考えてこれるようにしている。管理者のみでなく、経験あるリーダーが相談役として職員間のコミュニケーションを円滑にしている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者を含め、リーダー3人が日中の責任者となるようシフトを組んでいる。その為、利用者の要望に合わせ、受診や外出も対応できる。又、職員の急な休みについても調整できるよう、連絡体制ができている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時には家族への連絡、利用者への説明とお別れ会を行うことで理解をいただいている。		
5．人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修会の実施と教育計画に沿った指導と施設外研修への参加を行っている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の事業所との連携や研修による情報交換を行っている。又、施設外研修への参加を行っている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員との話し合いの機会を多く持ち、ストレス対策の研修への参加や他事業所へ業務の協力依頼を行い、ストレスを抱え込まないようにしている。又、休憩場所は併設施設職員とも交流できる場所を活用し、気分転換を図っている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は頻回に現場へ往来し、利用者や職員の話を聴き、業務の改善や職員の悩みの把握に努めている。職員の資格取得に向けた支援を行い、本人の意向を重視しながら職場内の労働環境づくりに努めている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、家族に対して事前面談でよく話を伺うようにし、生活状況を把握するように努める。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や必要性がある場合は、相談に応じる旨を伝え、利用時確認している。又、「対応できること･できないこと」ははっきりと伝えるようにしている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が見学してもらうことから始め、体験利用の希望があった際は対応する。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りを通じて、副菜の漬物を作ってもらったり、味付けを任せたりしている。又、昔流行った歌や生活ぶりを伺い、共通の話題･生活暦にあった会話や活動を増やすようにしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月の状況報告の他、2ヶ月に1度の家族昼食会をきっかけに、利用者の昔の様子を伺ったり、今現在の対応方法で悩んでいることなど相談しあっている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に対する不満の声などが聞かれたときにはフォローをし、家族にも話を合わせてもらうよう依頼、面会を促すようにしている。又、行事にも積極的に参加していただき、利用者と共に過ごす時間を提供している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の会話の内容に合わせ、馴染みの方の名前を常に出すよう配慮している。又、自宅の様子が心配と不安を感じる方には、外出にて対応、家族へも同意を得ている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間でのトラブルが起きないよう、職員は個々の関係を把握している。作業を依頼するときや職員とのコミュニケーションでの偏りがないよう、利用者全員に目を配り、孤立しないよう配慮している。ときには利用者同士で食事介助しようとする微笑ましい姿を見ることがある。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	実施していない。	○	時節の挨拶状送付を行って行きたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	統一した手順でアセスメントを実施し、得られた情報と担当職員の関わりから、個別性のある目標を設定し、一人一人の具体的な介護計画を作成している。希望の聞き取りが難しい方については、本人の安心できる事や不快を感じさせないことを重要視している。		
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	余暇時間を利用して一人ひとりとの対話を行うようにしている。本人の口から語られる新しい情報を基に、家族から面会の折に経緯を確認し、介護計画に生かすようにしている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は利用者個々の生活のペースを把握しており、本人の体調に合わせた活動を進めたり、コミュニケーションを図るようにしている。予測できないことが起きた際は、個別での行動記録を作成し、問題の分析を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティング時にカンファレンスの機会を設けるとともに、問題が発生したときはミーティングを利用し、話し合い、計画の追加を行っている。		
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1ヵ月ごとのモニタリングを行っており、必要があればその都度、変更するようにしている。基本的には6ヶ月ごとにアセスメントし、見直しを行っている。家族へは面会時を利用し、希望を伺うようにしているが、カンファレンスに同席してもらうための調整が難しい。	○	カンファレンスへの家族参加が難しいため、事前に照会用紙を送付し意向を伺う機会を作ってみる。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録責任者を決め記入する他、ちょっとした行動の現われをありのまま転記している。又、担当職員の関わりの記録から計画への取り込みを行っている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行事や訪問についての合同実施（計画も含む）や併設看護師による医療的な対応や指導を受けている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	学生ボランティアの受け入れや外部指導者によるエアロビ体操を実施している。又、災害協力隊を発足し、防災対策にも援助・協力いただいている。その他、郷土芸能や保育園児の訪問などを受け入れている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実施していない。	○	必要に応じて相談していきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実施していない。	○	必要に応じて相談していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の嘱託医（かかりつけ医）の回診のほか随時相談に乗っていただいている。 受診必要時は家族への状況説明、付き添いの依頼、及び希望医院の確認を行っている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月1回の回診時に職員も付き添いし、状況報告、行動観察を基に相談を行っている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の看護師に報告、相談し、対応の指導を仰いでいる。又夜間、急変時の連絡対応にも協力してもらっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	見舞いでの状況確認をするとともに病院看護師への働きかけを行うようにしている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の「重度化対応における指針」「看取りに関する指針」を作成し、家族へ説明、同意を得ている。現在のところ、看取りの必要な方はいらっしゃらないが、指針に沿って対応に当たれるようにしている。	○	スタッフへの教育の機会を作り、理解を深めると共に、相談があった際は誰でもが対応できるようにしていきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記に同じ		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント･ケアプランや支援状況等を手渡すと共に、情報交換を行い利用者の生活の混乱を最小限に食い止めるようにしている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生活ペースに合わせた対応と言動を否定せず、受容的態度で接することを心がけている。　個人情報の取り扱いについては法人の基本方針にのっとり扱っている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の訴えを最後まで聴き、場合によっては次の言葉を予測しながら話題を提供することで希望や決定を引き出すように努めている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールはなく、その日の利用者の状況に合わせて、外出計画を盛り込み、なるべく外へ出るようにしている。	○	車椅子利用の方の外出支援の機会を増やしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	月1回併設施設の理容室で行っている。又、利用者や家族の希望により、理美容院へ出かけたり、訪問依頼の際は職員が連絡調整の支援を行っている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に調理を行い、できた食事を同じテーブルで摂り、献立の説明や和やかに会話を楽しんでいる。又、食べこぼしにはさりげない気配りと介助が必要な方へは嚥下の状態を見ながら支援している。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	午前・午後のティータイムには好きな飲み物を選んでいただき、好みの温度で提供している。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パット交換や衣類交換の支援時は、個人にあった排泄介助で、本人と目が合わないよう、早めに介助し、言葉がけも他利用者に聴かれないよう配慮している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回個浴を行っている。入浴日は決めず本人の希望に合わせて入浴日を決めている。水虫治療と安眠効果を目的に足浴を実施している。身体レベルの低下で家庭浴槽の対応が難しくなっている方がいる。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握している。夜眠れない利用者には日中の散歩や軽作業などの活動を促し、安眠できるよう支援している。又、眠くなるまで職員との会話やテレビ鑑賞、牛乳飲用などを楽しんでいる方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験を生かした調理、掃除、縫い物など行っていただき、仕事を任されているという自信を持っていただくようにしている。拒否されるときは無理強いせず、一人で過ごす時間も希望に合わせて確保している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の金銭管理の力量を把握しており、外出の際は小遣いを持参していただき、欲しい物は買えるようにしている。支払いの際は本人に金銭のやり取りをしていただき、職員は見守りをする。家族も小遣いの大切さを認識しており、所持金が少なくないかと職員に聞いてくることがある。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車両を使ってのドライブのほか外気浴を行うようにしている。又、運動不足になるため、施設外の散歩を希望時行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の希望にあわせ、自宅を見に行ったり、長距離でのドライブ（海、ダム）などへ行っている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけ、家族と話をする機会を作っている。希望が無いため、手紙での支援は行えていない。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族面会時は積極的に声かけを行い、居室でお茶を飲みながらゆっくり過ごしてもらうようにしている。希望時は実費であるが家族の食事も提供している。面会時間は家族の都合に合わせ、柔軟に対応している。宿泊の希望も同室での対応をとっている。2ヶ月に1回の家族昼食会は開所当時から継続し行っている。		
（4）安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束を行わないことを認識しており、拘束は行われていない。併設施設との共同で委員会があり、月に1回話し合いがなされている。禁止行為についてはいつでも閲覧できるファイルにて管理しており、確認できるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、ドアの開閉が音で確認できるようにしている。外出傾向を察知したときには職員が付き添って散歩したり、ドライブへ出かける支援を行っている。又、無断外出に備えて併設施設全職員が所在確認のための見守り、連絡の体制をつくっている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者全員の所在を３０分ごと確認する体制がとられており、夜間は安否確認のため巡視を行っている。個別で注意が必要とされる場合は行動の詳細を申し送るようにしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤は施錠できる場所に保管し、刃物は使用後、数を確認し施錠できる場所においている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリはっとや事故に関する報告書が整備されており、発生時には報告書を作成して回覧すると共に、申し送りで全職員に周知し再発防止の為の検討を行っている。又、併設施設共同の委員会でも、以前起きたケースについての防止策が継続されているかの確認を行い、忘れないよう職員に注意を呼びかけている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	併設看護師の指導で研修を行っている。又、体調不良者の夜間の予測指示をもらうことで夜勤職員の不安を軽減している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回利用者と共に避難訓練を行っている。消防署の協力を経て、避難訓練・避難経路の確認を行ってもらっている。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会や電話連絡時の状況報告の中で、急変、怪我等の起こりうる事柄について、不安を感じさせないよう配慮を行いながら、対応策も含めて伝達し、家族の希望もその都度伺うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「いつもと違う」という気づきを大事にし、感じた時は、職員同士お互いに確認しあい観察を行っている。又、体調変化時はバイタル測定、応急処置をし、速やかに看護へ連絡、指示をもらうようにしている。看護による日常的な健康管理が行われている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は併設施設の看護にて管理され、看護から職員、職員から利用者に手渡しする体制となっているがこの間、名前と用量等を何度も確認し誤薬防止に努めている。個人のファイルには処方箋をいつでも確認できるようにしている。内服変更時には全職員に周知し、観察のポイントを看護師より指導してもらっている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、一人一人の排泄パターンを把握しており、夜間を含めて、利用者に不快のない適切な支援が行われるよう、排泄用具の検討を行っている。便秘対策としてカスピ海ヨーグルトや寒天を使ったおやつなど取り入れている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	洗面所に歯磨きセットを置いており、毎食後に口腔内の清潔保持が行えるように努めている。	○	歯磨きやうがいの理解が難しい方へは飲用しても良いように緑茶でのうがいを試している。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作成しており、併設施設の管理栄養士の助言を得ている。利用者個別での摂取量や嚥下・咀嚼状態、体調に合わせ、形態変更も柔軟に対応している。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルが整備されており、見直しも行われている。職員間での研修も行われている。インフルエンザ予防接種は家族の同意のもとで実施されている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫は1週間に1回清掃、整理するほか、布巾などの台所用品は毎日消毒している。食材については毎日納品の際、検品を行い賞味期限を確認している。又、常に手洗いを実施し、食中毒の防止に努めている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は一般家庭のような造りとなっているほか、ベンチやプランターが置かれ、暖かい雰囲気となっている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファーやテーブルが置かれている他、10畳ほどの小上がりの座敷が設置されている。壁には行事の写真を飾り、話題提供のひとつとしている。 時々、食堂テーブルの配置換えを行ったり、テーブルクロスなどで気分転換を図っている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファーに座ったり、小上がりで昼寝を楽しんだりと個別に好きな場所でくつろいでいる。中には静けさを求めて、併設施設ロビーへ気分転換しに行く方もいる。		

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族になじみのものを持ち込んでもらうよう働きかけてはいるが、難しい方には職員側で壁に装飾をしたりと工夫をしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時々窓を開閉して外気を取り込んでおり、空気のよどみや生活臭がなく快適である。ホール内には温度計、湿度計を居室へは温度計を設置し、利用者の衣類調整や寒暖に合わせた電化製品の適切な温度管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝い歩きが出来るよう、廊下やホールへ手すりを設置し、浴室へは滑り止めマット、浴槽用イスを利用、レベル低下の方にも対応できるようにしている。主に食堂テーブルを利用し、座りながら軽作業が出来るよう対応している。ベットからの転落防止の為、牛乳パックを利用した台を側に置き衝撃防止に努めている方もいる。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の「わかる力」や変化への順応性を見極め、状況に合わせて環境整備に努めている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にプランターやベンチを置いて利用者が涼んだり、外気浴ができるような工夫をしている。ホールからも出られるウッドデッキを活用し、行事を行うこともある。		

（　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設施設との利点を生かし、合同での行事開催で利用者の活動の場面を多く持ち、各種職員の往来や協力を得ることができる開放的な環境に恵まれている。
又、今年度は外部講師によるエアロビ体操を実践し、コミュニケーションを図りながら、機能低下防止に努めている。